

# 研究計画書

## 1. 研究課題 親子参加型オンライン健康ワークショップにおけるアンケート調査

### 2. 研究の概要

#### 2・1 目的

健康保険組合では被保険者・被扶養者を対象に事業主との連携のもと、生活習慣病の予防や健康づくりを目的とした様々な保健事業が実施されている。これらの保健事業により特定健診受診率の向上や喫煙率の低下等、一定の成果は得られているものの、一層の改善を得るには、新たなアプローチの工夫が求められている。

生活習慣病予防は、従来、主に成人を対象としたものであるが、親のおやつの与え方が成人後の過体重に影響することが示されている<sup>1</sup>等、学童期は生涯を通じた健康づくりの基礎となる重要な時期である。また、児童・生徒期に保健についての学習内容が多いほど、成長後、生活習慣病への予防意識が高く望ましい生活習慣が身についているという先行研究<sup>2</sup>もあり、子どもにとっても早期からの予防教育は成人後の健康増進の基盤になると考えられる。

本研究では、子ども向け冊子の読者親子が参加できるオンライン健康ワークショップの実施前後におけるアンケート調査を実施する。本アンケート調査では、子どもを通して家族で健康を考える機会を提供し行動変容を促す取り組みによる大人の健康意識や行動変容等の変化を把握し、子どもを通じた家族単位でのアプローチによる改善の可能性を探る。

本研究は、共通の課題を持つ複数の健康保険組合および事業主がコンソーシアムを形成し共同事業<sup>3</sup>の一環として実施する。共同事業で実施されるオンライン健康ワークショップは各事業場の働き方と生活習慣の特徴も踏まえた内容であり、健康づくりに関する意識向上に加え、家族の職場への理解が深まる効果も期待されている。(ワークショップ開催予定日；2022年8月27日および9月10日)

#### 2・2 方法

##### 1) 事前アンケート

①対象者：ワークショップに参加を予定している大人

②調査内容：

- ・調査協力への同意
- ・加入している健康保険組合
- ・保険証の記号・番号／被保険者区分
- ・性別／年齢
- ・仕事の種類
- ・健康づくりや生活習慣の課題
- ・健診受診状況

##### 2) 事後アンケート

①対象者：ワークショップに参加した大人

②調査内容：

- ・調査協力への同意
- ・加入している健康保険組合
- ・保険証の記号・番号／被保険者区分
- ・ワークショップのキーワード
- ・性別／年齢／居住する都道府県名
- ・ワークショップ参加を思いついた人
- ・ワークショップのわかりやすさ (大人／子ども)
- ・講義時間の適切さ
- ・子ども向け健保日より冊子の活用状況 (大人／子ども)
- ・ワークショップ後に家族で話題にした健康づくりに関する内容
- ・ワークショップ後の家族の生活習慣の変化 (大人／子ども)
- ・ワークショップに参加した感想

<sup>1</sup> 佐田みずき,山岸良匡,西連地利己,他. 児童期におけるおやつの与え方が, 22歳時の体格に与える影響:IBACHIL研究. 日本循環器病予防学会誌 2017; 52: 3

<sup>2</sup> 高尾憲司,藤岡秀樹. 大学生の疾病予防に対する意識, 行動と児童・生徒期の保健学習との関連・生活習慣病の予防に着目して. 小児保健研究 2014; 73: 6

<sup>3</sup> 厚生労働省. 健康保険組合における保健事業の共同実施推進ガイド 令和3年3月

### 3) 分析方法

各アンケート調査の結果をもとに、回答情報を分析する。  
基本属性を軸としたクロス集計を行うとともに、自由回答部分についても定性的な分析を行う。

(参考) ワークショップは 2022 年 8 月 27 日および 9 月 10 日に開催予定。

|  |             |      |           |
|--|-------------|------|-----------|
| 実施・収集期間  | 2022年8月～10月 | 研究期間 | 部局長承認後3年間 |
| <h2>2・3 対象及び資料等</h2> <h3>1) 対象</h3> <p>令和4年度高齢者医療運営円滑化等補助金「レセプト・健診情報等を活用したデータヘルスの推進事業（保健事業の共同化支援に関する補助事業）」による「子どもを通して家族の健康と生活習慣改善を見直す保健事業」におけるコンソーシアムに参加する健康保険組合の被保険者で、下記の条件を満たすもの。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・被扶養者に小学校高学年の児童がいる</li><li>・東京大学オンライン健康ワークショップの参加者</li></ul> <p>(ワークショップの参加者は、コンソーシアム参加健康保険組合が配布する子ども向け冊子の読者のうち参加を希望するもの。主幹健康保険組合が設置したインターネットの申込サイトを通じて参加を申し込む。)</p> <p>(参考) コンソーシアム参加健康保険組合 (計6組合)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>ヤマトグループ健康保険組合 (主幹健康保険組合)</li><li>コニカミノルタ健康保険組合</li><li>グラクソ・スミスクライン健康保険組合</li><li>ニューオータニ健康保険組合</li><li>BIJ健康保険組合</li><li>石塚硝子健康保険組合</li></ul> <h3>2) 資料・情報</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・無記名自記式アンケートの回答情報。</li><li>・情報量はワークショップ申込者数による。対象となる被保険者 (約 13,000 人) のうち、ワークショップ申込率が 1%とした場合、1300 名の有効な回答情報が得られる予定。</li><li>・情報の分析結果は、コンソーシアム参加健康保険組合にフィードバックする。</li></ul> |             |      |           |
| <h2>2・4 研究参加者の実体験</h2> <h3>1) 事前アンケート (調査時期; 2022年8月)</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・ワークショップ参加者は、ワークショップ申込後、無記名自記式アンケート調査に回答する。</li><li>・オンラインアンケートの回答画面を読み、調査協力に同意した場合に質問に回答する。</li><li>・所要時間は一人あたり合計で最大10分を予定する。</li></ul> <h3>2) 事後アンケート (調査時期: 2022年9月～10月)</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・ワークショップ参加者は、ワークショップ終了の2～3週間後に、無記名自記式アンケート調査に回答する。</li><li>・オンラインアンケートの回答画面を読み、調査協力に同意した場合に質問に回答する。</li><li>・所要時間は一人あたり合計で最大15分を予定する。</li></ul>  |             |      |           |

### 3. 研究を実施する施設とその役割

#### 1) 該当する施設名とその役割 (別途添付可)

- ①インフォームド・コンセントを受ける施設；加入する健康保険組合
- ②資料等を収集する施設；ヤマトグループ健康保険組合（コンソーシアム主幹健保）
- ③資料等を匿名化する施設；ヤマトグループ健康保険組合（コンソーシアム主幹健保）
- ④資料等を解析する施設；

伊藤国際学術研究センター 4F共同研究室 東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット

- ⑤資料等を保存する施設；

伊藤国際学術研究センター 4F共同研究室 東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット

#### 2) (該当する場合) 学外施設での対応とその状況 (別途添付可)

- ・研究参加者が加入する健康保険組合は、「子どもを通して家族の健康と生活習慣改善を見直す保健事業」におけるコンソーシアムへの参加により、本研究への参加を承諾したこととなる。
- ・研究従事者は、新型コロナウイルス感染対策を目的に、研究責任者が承諾した自宅等の事業場においても情報を解析する。

### 4. 研究における倫理的配慮

#### 4・1 インフォームド・コンセント

##### 1) 実施方法

オンラインアンケートの設問にて調査協力への同意を確認する。

- ##### 2) 特に倫理的な配慮を必要とする研究参加者への配慮の有無と対応策 → あり (内容を記入) なし

#### 4・2 個人情報保護

- ##### 1) 本学における個人情報の有無とその種類 → あり なし

回答者属性に関する調査項目として前後比較をする目的で保険証の記号・番号が含まれるが、本学の研究は、コンソーシアム主幹健保にて匿名化されたデータによって実施する。

- ##### 2) 個人情報保護の方法

該当しない

- ##### 3) 研究期間終了後：個人情報の保存／廃棄方法

該当しない

#### 4・3 資料等の取扱

アンケート調査結果のデータは、研究期間終了後5年間保管し破棄する。

○当該研究課題の範囲外で使用する可能性；なし

○当該研究の研究従事者以外が使用する可能性；なし

### 5. 安全の確保

- #### 1) 研究によって研究参加者に生じる危険や不快等

・アンケート調査の回答情報からプライバシー情報が漏洩することにより、研究参加によって不利益を被るリスクがある。

- #### 2) 危険や不快等への対応策

・アンケートデータは分析結果のみ、個人が特定できない状態でコンソーシアム参加健康保険組合にフィードバックするため、参加者へ不利益が発生することはない。(属性情報で個人が特定できるようなデータのフィードバックは行わない)

### 6. 備考

・研究参加者への謝礼の有無；なし あり (ミニカー1台と文房具3個セット)

・研究経費の内訳；令和4年度高齢者医療運営円滑化等補助金「レセプト・健診情報等を活用したデータヘルスの推進事業 (保健事業の共同化支援に関する補助事業)」

・企業等からの資金・装置等の供与の有無；なし あり